

令和元年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
5	1	4	土地改良費	258

部局名	都市整備部
課名	土木管理課

I : 事業概要

施策事業名	土地改良
事業目的	用水路・ため池・土地改良施設の良好な維持管理を行う。
事業内容	<p>●全体の事業計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・用水路、ため池など土地改良施設を適切に維持管理する。 <p>●主な事業内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ○土地改良(排水)事務 <ul style="list-style-type: none"> ・電気料金(ポンプ場、転倒堰) 436,213円 ・ほ場整備確定測量成果データ化業務委託 935,000円 ・濃尾用水地区用排水対策協議会負担金 2,000円 ・尾張西部排水対策推進協議会負担金 10,000円 ○土地改良(排水)施設管理 <ul style="list-style-type: none"> ・揚水機場保守点検委託(一本杉ポンプ場外4箇所) 540,000円 ・土地改良施設清掃委託(馬堤池外3箇所) 567,000円 ・堰、ゲート保守点検委託料 275,000円 ・公共用地除草委託(亀割大池地区外) 25件 4,512,000円 ・土地改良施設維持工事(地元要望等) 34件 9,994,372円 ・木津用水排水負担金 8,381,000円 ・木津用水路汚水処理施設維持管理費負担金 7,014,000円 ・入鹿用水土地改良区施設維持管理負担金 4,693,736円 ○農村自然環境施設管理 <ul style="list-style-type: none"> ・中島池東公衆トイレ清掃管理業務委託(中島池東公衆トイレ) 596,154円 ・農村自然環境整備事業造成施設維持管理業務委託(中島池ビオトープ) 904,700円
事業の成果・効果	用水路、ため池等について、土木要望に基づく修繕工事、除草、浚渫、堰・ゲートの点検を実施するなど、適正な維持管理を行った。

II : 個別事業内訳

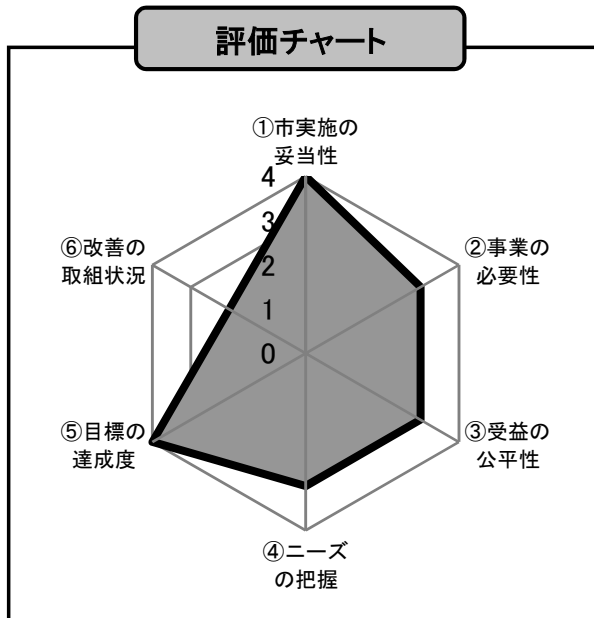
(単位：千円)

(総見直し・総点検進捗評価は4段階)

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	総見直し・総点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		情報発信	分かりやすさ	サービス水準
土地改良(排水)事務	1,404	146	1,258	90%	2	2	2
土地改良(排水)施設管理	36,215	0	36,215	100%	2	2	2
農村自然環境施設管理	1,709	0	1,709	100%	2	2	2
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	39,328	146	39,182	100%	2	2	2

Ⅲ：年度別事業費の状況 (単位：千円)

事業費		H30決算	R1決算	R2予算
		42,638	39,328	44,094
財源内訳	国県支出金	1,027	101	130
	地方債	0	0	0
	その他	60	45	40
	一般財源	41,551	39,182	43,924
一般財源の割合		97%	100%	100%



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	4	用水路、ため池等の管理は、犬山市法定外公共用物の管理に関する条例第2条の規定により、市が行う。
②事業の必要性	3	農業用排水路やため池は、地域排水路や洪水調整池としての機能も有しており、農業従事者のみならず、市民生活の安心・安全にも寄与する事業であり優先度は高いと考える。
③受益の公平性	3	農業従事者のみならず、農業用排水路やため池は、地域排水路や洪水調整池としての機能も有しており、その効果は広範囲に及ぶ。
④ニーズの把握	3	年度毎に提出される土木要望により、利用者の要望（ニーズ）を把握している。
⑤目標の達成度	4	危険箇所や事業効果が高い土木要望を優先的に実施した。水路関係の要望達成率は年度目標値40%に対し50%であり、目標を上回ることができた。
⑥改善の取組状況	2	事業の妥当性、経済性等を考慮し実施している。

Ⅴ：業務の総見直し・総点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和元年度に見直しを実施した事項	・中島池東公衆トイレの清掃業務を週5回から3回に見直した。(他の公園トイレと同様) ・市と委託契約を締結し、ため池堤体除草業務を実施していただける地元団体数を3団体(7池)増やすことができた。
令和2年度に見直しを実施している事項	引き続き、市と委託契約を締結し、ため池堤体除草業務を実施していただける地元団体を募っていく。
今後見直しを検討する事項	防災重点ため池における「緊急時の迅速な避難行動に繋げる対策」や「施設機能の適切な維持、補強に向けた対策」について、国や県と連携し検討をしていく。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和元年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
農業用水路、排水路の雑草繁茂対策	張コンクリート等による雑草繁茂抑制対策工事の実施や、ボランティア活動で除草を行っている地元団体が継続できるような支援策などの検討を進める。

令和元年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
5	2	1	林業振興費	260

部局名	都市整備部
課名	土木管理課

I : 事業概要

施策事業名	林道管理
事業目的	林道の適正な維持管理を行う。
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ●事業の全体計画 <ul style="list-style-type: none"> ・林道の維持補修を行い、適正管理に努める。 ●主な事業内容 <ul style="list-style-type: none"> ○林道管理 <ul style="list-style-type: none"> ・林道維持工事 49,500円
事業の成果・効果	市民からの通報や道路パトロールにより確認された、林道施設の損傷箇所や劣化箇所の補修を行うことにより、通行に支障が無いよう維持管理することができた。

II : 個別事業内訳

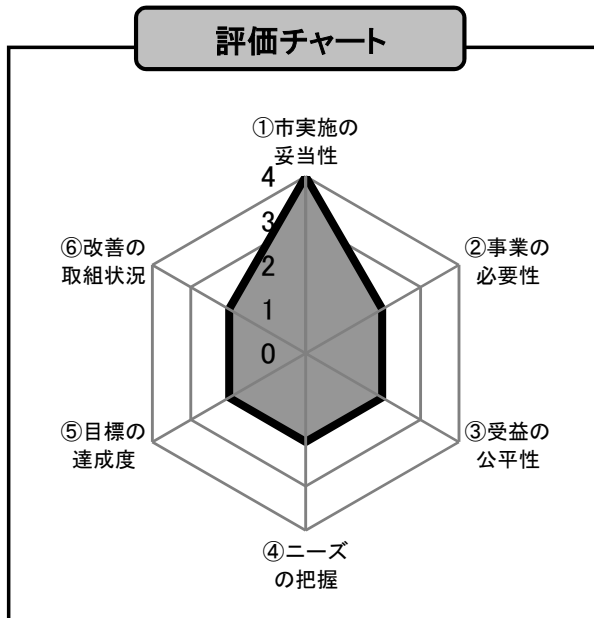
(単位：千円)

(総見直し・総点検進捗評価は4段階)

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	総見直し・総点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		情報発信	分かりやすさ	サービス水準
林道管理	50	0	50	100%	2	2	2
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	50	0	50	100%	2	2	2

Ⅲ：年度別事業費の状況 (単位：千円)

事業費		H30決算	R1決算	R2予算
		50	50	133
財源内訳	国庫支出金	0	0	0
	地方債	0	0	0
	その他	0	0	0
	一般財源	50	50	133
一般財源の割合		100%	100%	100%



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	4	林道管理規程第5条に定める管理者である市が実施する。
②事業の必要性	2	林道の維持管理を行っていく上で事業の継続は必須であるが、非常時には、要望等の事業は縮小も止むを得ない事業である。
③受益の公平性	2	林道利用者は限られているが、森林の持つ多面的な機能は、市民の生活環境向上に寄与している。
④ニーズの把握	2	年度毎に提出していただく土木要望により、利用者の要望（ニーズ）の把握に努めている。
⑤目標の達成度	2	通行不可能とならないよう必要最低限の維持管理はできている。台風等による倒木については、災害復旧事業で対応している。
⑥改善の取組状況	2	現在の利用状況を鑑み、必要最小限の維持管理としており、災害復旧以外の整備等は考えていない。

Ⅴ：業務の総見直し・総点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和元年度に見直しを実施した事項	特になし
令和2年度に見直しを実施している事項	特になし
今後見直しを検討する事項	特になし

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和元年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
被災等により通行不可能となった箇所、発見が遅れることがある。	道路パトロールの優先順位はどうしても下がるため、地元役員と連絡を取るなどして早期発見に努める。

令和元年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
7	1	1	土木総務費	276

部局名	都市整備部
課名	土木管理課

I : 事業概要

施策事業名	土木管理事務
事業目的	道路及び道路附属施設を適切かつ効果的に管理し、良好な維持管理を継続する。
事業内容	<p>●主な事業内容</p> <p>○土木管理事務</p> <ul style="list-style-type: none"> ・報酬費 土木常設員44名分の報酬 (地元からの土木要望とりまとめ等、市と市民の連絡調整役) 1,364,000円 ・光熱水費 電気料金 (街路灯、道路照明灯、観光街路灯等) 17,926,912円 ・役務費 火災保険料 (道路管理賠償責任保険料) 963,880円 ・委託料 測量登記委託料 (道路内民地処理、道路水路境界確定等) 3,504,786円 <li style="padding-left: 20px;">道路台帳更新委託料 (道路台帳デジタルデータ年度更新) <li style="padding-left: 20px;">道路法第28条に基づき道路台帳整備 <li style="padding-left: 20px;">街路灯管理システム更新業務委託料 1,458,000円 ・公有財産購入費 (道路、水路用地等) 2,702,049円 ・ライン大橋管理組合負担金 3,800,000円 <li style="padding-left: 20px;">(犬山市、各務原市で管理に要する経費を1/2ずつ負担)
事業の成果・効果	<ul style="list-style-type: none"> ・道路及び道路附属施設を適切かつ効果的に管理するための基礎資料として、道路台帳の適正な更新を行った。 ・道水路、公園等の占用・承認工事等の各種許認可申請の適正な処理、財産管理を行なうための境界確定、道路内民地処理等を適正に実施している。 ・ライン大橋管理組合としてライン大橋及び管理橋の日常点検を行い安全に通行できるよう管理ができています。

II : 個別事業内訳

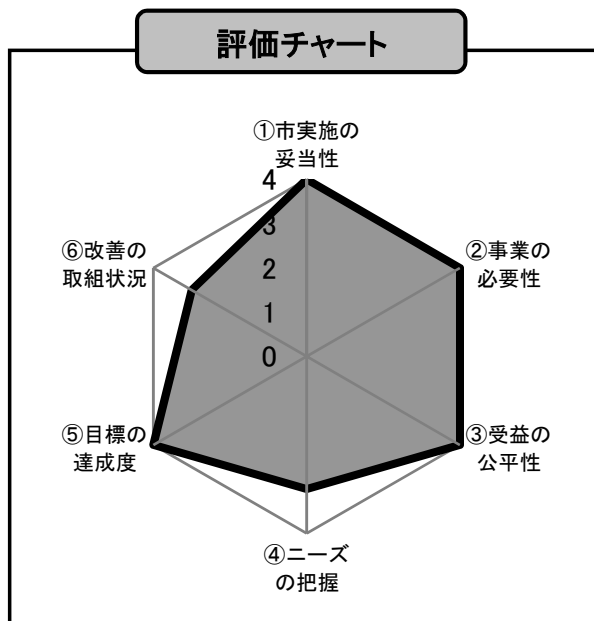
(単位：千円)

(総見直し・総点検進捗評価は4段階)

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	総見直し・総点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		情報発信	分かりやすさ	サービス水準
土木管理事務	41,078	30,546	10,532	26%	3	3	4
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	41,078	30,546	10,532	26%	3	3	4

Ⅲ：年度別事業費の状況 (単位：千円)

事業費		H30決算	R1決算	R2予算
		50,652	41,078	49,969
財源内訳	国県支出金	0	1,045	0
	地方債	0	0	0
	その他	28,369	29,501	33,600
	一般財源	22,283	10,532	16,369
一般財源の割合		44%	26%	33%



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	4	市道の管理については、道路法第16条により市が実施することとなる。
②事業の必要性	4	道路等の維持管理には用地の適正管理が必要不可欠である。
③受益の公平性	4	道路行政財産である道路を適正に管理するための測量・境界確定は市民の財産を保全する役割を有している。
④ニーズの把握	3	道路・道路付属設備の改善・修繕について地元(市民)からの要望を把握している。
⑤目標の達成度	4	1年間の業務としては達成している。
⑥改善の取組状況	3	事務の改善として、道路占用等更新手続きの提出様式の効率化や占用工事等着手届の廃止を行った。

Ⅴ：業務の総見直し・総点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和元年度に見直しを実施した事項	<ul style="list-style-type: none"> 道路、水路、法定外公共用物の占用更新手続きにおいて、許可内容等が更新申請様式内にアウトプットされるようシステム改修を行った。 道路占用、承認工事等において、形骸化している工事着手届を道路管理規則を改正し削除した。
令和2年度に見直しを実施している事項	情報公開ツールの拡充として公開型GISシステムを導入し、道路台帳情報などの地図情報をWEB上に公開しユーザーの利便性の向上を図る。
今後見直しを検討する事項	今後も土木管理事務全般事業について、必要性、改善点、コスト面について検討を行なう。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和元年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
事務処理の簡素化、迅速な窓口対応を行なうために、道路台帳属性データ等の電子化による整理や充実を図る必要がある。	現在の道路台帳システムの問題点、必要とされる属性データ等の検討を行い、更に使いやすく改善を図る。

令和元年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
7	2	1	道路維持費	280

部局名	都市整備部
課名	土木管理課

I : 事業概要

施策事業名	道路補修
事業目的	ライフラインである道路を安全で快適に利用できるよう適正に維持管理する。
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ●事業の全体計画 <ul style="list-style-type: none"> ・地元要望等に基づき、道路の側溝や舗装などの修繕工事を行い、道路の適正な維持管理に努める。 ・市内で特に交通量が多い幹線道路の経年劣化に対応するため、計画的に舗装改修を行う。 ●主な事業内容 <ul style="list-style-type: none"> ○道路補修 <ul style="list-style-type: none"> ・道路維持工事 187件 38,185,790円 ・舗装修繕工事 49件 24,617,520円 ・道路改修工事 16,476,960円 <ul style="list-style-type: none"> 市道羽黒東182号線 4件 9,941,880円 市道楽田東344号線外1 6,535,080円 ・舗装改修工事（幹線道路の計画的な舗装改修） 50,090,400円 <ul style="list-style-type: none"> 市道犬山公園小牧線 18,576,000円 市道名古屋犬山線外1 20,196,000円 市道犬山今井上線 11,318,400円 ・道路植栽帯維持管理工事 275,000円 ・原材料費（常温合材、砕石、土舗装材） 2,459,203円
事業の成果・効果	<ul style="list-style-type: none"> ・地元要望等に基づき、道路の側溝や舗装などの修繕工事を行い、適正な維持管理に努めた。 ・幹線道路の舗装改修計画に基づき、令和元年度は3路線（市道犬山公園小牧線、市道名古屋犬山線、市道犬山今井上線）の舗装改修工事を実施した。 ・狭隘道路の整備として、市道羽黒東182号線の工事が完了した。

II : 個別事業内訳

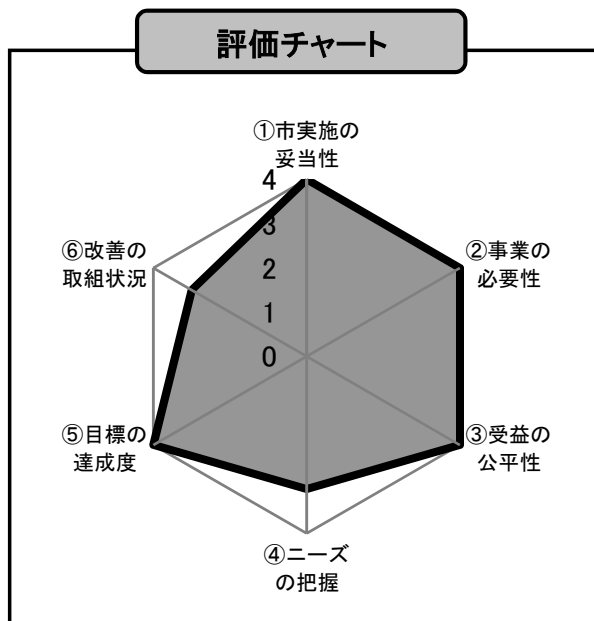
(単位：千円)

(総見直し・総点検進捗評価は4段階)

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	総見直し・総点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		情報発信	分かりやすさ	サービス水準
道路補修	132,595	6,424	126,171	95%	3	3	3
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	132,595	6,424	126,171	95%	3	3	3

Ⅲ：年度別事業費の状況 (単位：千円)

事業費		H30決算	R1決算	R2予算
		135,760	132,595	165,276
財源内訳	国県支出金	0	0	0
	地方債	0	0	102,900
	その他	3,891	6,424	8,230
	一般財源	131,869	126,171	54,146
一般財源の割合		97%	95%	33%



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	4	道路法16条の規定により市道の管理はその路線の存する市が行う。
②事業の必要性	4	ライフラインである道路施設を適正に管理することは行政の責務であり、必須な事業である。
③受益の公平性	4	市内全域の道路等の事業であるため、不特定多数の市民が恩恵を受ける事業である。
④ニーズの把握	3	年度毎に提出される土木要望により、利用者の要望(ニーズ)を把握している。
⑤目標の達成度	4	道路関係の地元要望に対する達成率は、目標60%に対し実績は63%で、目標を上回ることができた。
⑥改善の取組状況	3	限られた財源内で、適切な維持管理を行うため、事業の緊急性・必要性などに、地元要望の優先順位を考慮しながら、実施している。

Ⅴ：業務の総見直し・総点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和元年度に見直しを実施した事項	幹線道路以外でも舗装劣化が酷く全面改修が必要な路線を修繕できるよう、修繕計画を立て予算拡充を図った。
令和2年度に見直しを実施している事項	幹線道路の舗装改修計画(5ヶ年)が令和2年度で終了するので、現地調査を行い令和3年度以降の新たな舗装改修計画(概ね5ヶ年)の策定を進める。
今後見直しを検討する事項	幹線道路の舗装改修計画(5ヶ年)が令和2年度で終了するので、現地調査を行い令和3年度以降の新たな5ヶ年計画の策定を進める。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和元年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
幹線道路の舗装改修計画の策定	舗装改修が必要な区間を現地調査により抽出し、優先度を決定。概ね5ヶ年での予算平準化が図れるような計画を立て実施検討を行う。

令和元年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
7	2	1	道路維持費	280

部局名	都市整備部
課名	土木管理課

I : 事業概要

施策事業名	道路施設等管理
事業目的	道路を安全で快適に利用できるよう道路施設の維持管理、街路樹の剪定や除草等を行う。
事業内容	<p>●事業の全体計画 道路パトロールによる簡易な補修、路肩の除草、幹線道路の路面清掃、道路植栽帯については街路樹剪定、除草等を行い、道路を安全に通行利用できるよう適正に維持管理を行う。</p> <p>●主な事業内容</p> <p>○道路施設等管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・消耗品費（凍結防止剤） 314,415円 ・道路作業業務委託(市内全域 道路パトロール・作業等) 8,980,800円 ・路面清掃作業委託(1・2級 道路路肩 年1回) 1,045,000円 ・側溝浚渫委託 1,061,548円 ・測量調査委託(基準点測量、平板測量等) 1,925,000円 ・土のう回収委託(町内清掃による側溝土砂の回収処分) 1,509,080円 <p>○道路植樹等管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道路植栽帯管理業務委託(市道犬山公園小牧線外19) 12,326,000円 ・道路除草委託 17,009,920円 ・街路樹剪定委託 7,469,800円 ・街路樹薬剤散布委託 185,400円 ・倒木処理・はみ出し枝処理委託 2,714,480円
事業の成果・効果	道路パトロールによる簡易な補修、路肩の除草、幹線道路の路面清掃、道路植栽帯については街路樹剪定、除草等を行い、道路を安全に通行利用できるよう適正に維持管理を行った。

II : 個別事業内訳

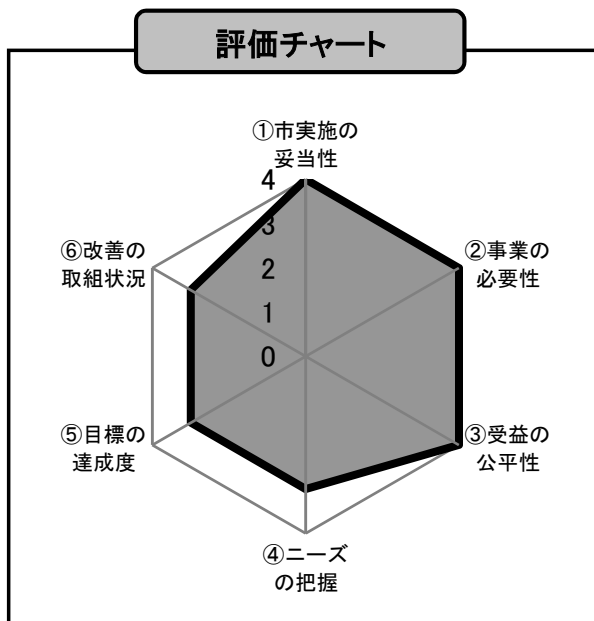
(単位：千円)

(総見直し・総点検進捗評価は4段階)

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	総見直し・総点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		情報発信	分かりやすさ	サービス水準
道路施設等管理	14,929	0	14,929	100%	3	3	3
道路植樹等管理	39,803	0	39,803	100%	3	3	3
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	54,732	0	54,732	100%	3	3	3

Ⅲ：年度別事業費の状況 (単位：千円)

事業費		H30決算	R1決算	R2予算
		50,660	54,732	60,226
財源内訳	国県支出金	0	0	0
	地方債	0	0	0
	その他	0	0	0
	一般財源	50,660	54,732	60,226
一般財源の割合		100%	100%	100%



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	4	道路法16条の規定により市道の管理はその路線の存する市が行う。
②事業の必要性	4	ライフラインである道路施設を適正に管理することは行政の責務であり、必須な事業である。
③受益の公平性	4	市内全域の道路等の事業であるため、不特定多数の市民が恩恵を受ける事業である。
④ニーズの把握	3	道路除草委託等一部においては、年度毎に提出していただく土木要望により、利用者の要望(ニーズ)を把握している。
⑤目標の達成度	3	除草の時期が遅くなったところもあるが、予定していた年間の維持管理業務を行うことはできた。
⑥改善の取組状況	3	事業の妥当性、経済性等を考慮し実施している。

Ⅴ：業務の総見直し・総点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和元年度に見直しを実施した事項	土舗装材による雑草抑制対策を進めている。
令和2年度に見直しを実施している事項	事業の実施時においては、妥当性、経済性等について常に見直しを図っていく。
今後見直しを検討する事項	植栽帯内に密集した街路樹の間引き等を検討していく

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和元年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
除草業務を効率的に発注するため、施工箇所をまとめているが、受注者の施行順序により除草時期が遅くなり、適切な時期に施行されないことがある	除草業務受注者が適切な時期に作業に入れるよう、発注ロット等の見直しを検討していく

令和元年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
7	2	1	道路維持費	280

部局名	都市整備部
課名	土木管理課

I : 事業概要

施策事業名	道路交通安全施設修繕
事業目的	車両及び歩行者の安全確保をするため、道路安全施設を適正に維持管理する。
事業内容	<p>●事業の全体計画</p> <ul style="list-style-type: none"> 土木要望やPTAからの要望に基づき、防護柵、区画線、街路灯など道路安全施設の新設や修繕工事を行い、道路の安全性を確保する。 <p>●主な事業内容</p> <p>○道路交通安全施設修繕</p> <ul style="list-style-type: none"> 街路灯設置工事 6件 2,515,910円 <ul style="list-style-type: none"> LED街路灯新設：93基 道路安全施設修繕工事 29件 9,048,330円 <ul style="list-style-type: none"> 防護柵工、区画線工など 交通安全総点検対策工事 3件 2,838,000円 <ul style="list-style-type: none"> カラー舗装工など 道路照明灯更新工事 2,581,200円 <ul style="list-style-type: none"> 道路照明灯柱建替：5基 街路灯維持工事 34件 2,927,740円 LED道路照明灯借上料（1年分） 1,775,520円 <ul style="list-style-type: none"> リース対象：LED灯具及び電源装置 450基 賃貸借期間：平成30年12月1日から令和10年11月30日まで 貸付人：NTTファイナンス株式会社東海支店
事業の成果・効果	土木常設員やPTAからの要望に基づき、防護柵、区画線、街路灯など道路安全施設の新設・補修を行い、道路の危険ヶ所を解消し、安全性の確保を図ることができた。

II : 個別事業内訳

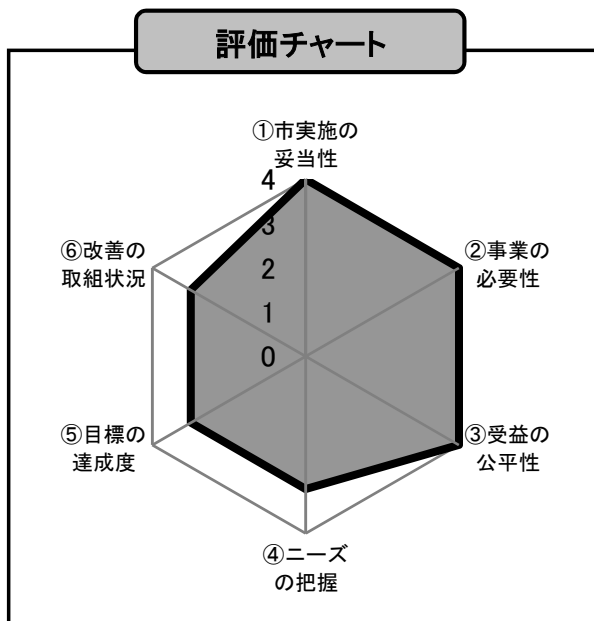
(単位：千円)

(総見直し・総点検進捗評価は4段階)

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	総見直し・総点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		情報発信	分かりやすさ	サービス水準
道路交通安全施設修繕	22,349	0	22,349	100%	3	3	3
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	22,349	0	22,349	100%	3	3	3

Ⅲ：年度別事業費の状況 (単位：千円)

事業費		H30決算	R1決算	R2予算
		29,380	22,349	20,676
財源内訳	国県支出金	0	0	0
	地方債	0	0	0
	その他	0	0	0
	一般財源	29,380	22,349	20,676
一般財源の割合		100%	100%	100%



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	4	道路法16条の規定により市道の管理はその路線の存する市が行う。
②事業の必要性	4	ライフラインである道路施設を適正に管理することは行政の責務であり、必須な事業である。
③受益の公平性	4	市内全域の道路等の事業であるため、不特定多数の市民が恩恵を受ける事業である。
④ニーズの把握	3	年度毎に提出される土木要望により、利用者の要望(ニーズ)を把握している。
⑤目標の達成度	3	街路灯の新設要望116基に対して93基設置することができた。街路灯の不具合については、速やかに修繕を行った。
⑥改善の取組状況	3	限られた財源内で、適切な維持管理を行うため、地元要望の優先順位を考慮しつつ、事業の緊急性・必要性を判断し、実施している。

Ⅴ：業務の総見直し・総点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和元年度に見直しを実施した事項	通学路の安全対策工事を計画的かつ継続的に実施できるよう、令和2年度からの新規事業として「交通安全総点検対策事業」を実施計画に計上し、予算を拡充して取り組めるようにした。
令和2年度に見直しを実施している事項	通学路の安全対策として令和2年度から予算を拡充し、グリーンベルトおよびカラー舗装などを重点的に整備し、子どもたちが安心して通学できる環境を整えていくとともに、園児の散歩コースについても、防護柵設置など安全対策工事を行う。
今後見直しを検討する事項	市内の街路灯を一斉にLED化してから間もなく10年を向えるが、LED灯具の寿命は10年程度と言われており、灯具更新の時期となるため、その対策を検討しておく必要がある。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和元年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
通学路安全対策の推進	近年、通学路の安全対策として、グリーンベルトやカラー舗装の要望が増加しており、今後も学校関係者や地元地区と連携し、危険ヶ所の抽出を行う必要がある。

令和元年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
7	2	1	道路維持費	280

部局名	都市整備部
課名	土木管理課

I : 事業概要

施策事業名	駅前広場維持管理
事業目的	駅利用者が、安全かつ快適に利用ができるよう施設を維持管理する。
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ●事業の全体計画 <ul style="list-style-type: none"> ・駅利用者が、安全で快適に利用ができるよう施設を維持管理する。 ●主な事業内容 <ul style="list-style-type: none"> ○駅前広場管理 <ul style="list-style-type: none"> ・光熱水費（電気、水道、下水道） 3,646,769円 犬山駅前広場（東西）、楽田駅東広場 ・犬山駅東西連絡橋維持管理業務委託 清掃管理、消防設備及び電気保守点検 1,455,052円 ・犬山駅前広場維持管理業務委託料 清掃、除草、樹木剪定、花壇管理 3,983,600円 ・犬山駅昇降機保守点検委託料 1,438,282円 エスカレーター2基、エレベーター2基 ・犬山駅前広場公衆便所清掃委託料 973,152円 ・駅前広場維持工事請負費 15件 1,777,528円 ○犬山駅東西連絡橋改修 <ul style="list-style-type: none"> ・犬山駅西エスカレーター改修工事請負費 37,180,000円
事業の成果・効果	<ul style="list-style-type: none"> ・ゴミ拾い、清掃など日常的な維持管理については、業務委託により適正に行った。 ・施設の老朽化による損傷及び故意による破損に迅速に対応した。 ・職員による駅前広場のパトロールを毎月実施し、修繕箇所の早期発見に努めた。 ・犬山駅東西連絡橋の修繕計画に基づき、駅西エスカレーターの改修を行った。

II : 個別事業内訳

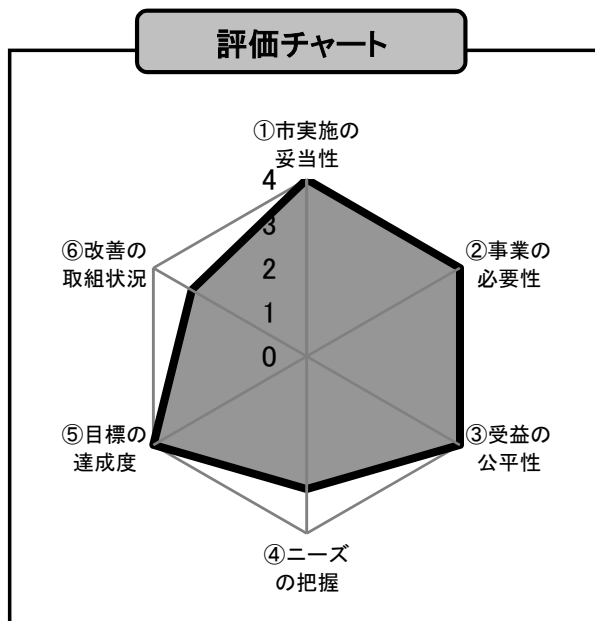
(単位：千円)

(総見直し・総点検進捗評価は4段階)

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	総見直し・総点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		情報発信	分かりやすさ	サービス水準
駅前広場管理	15,115	667	14,448	96%	3	3	3
犬山駅東西連絡橋改修	37,180	0	37,180	100%	3	3	3
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	52,295	667	51,628	99%	3	3	3

Ⅲ：年度別事業費の状況 (単位：千円)

事業費		H30決算	R1決算	R2予算
		24,571	52,295	32,819
財源内訳	国県支出金	0	0	0
	地方債	0	0	0
	その他	607	667	600
	一般財源	23,964	51,628	32,219
一般財源の割合		98%	99%	98%



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	4	駅前広場は市管理地であり、民間への移行は困難なため、市で維持管理を行う。
②事業の必要性	4	駅前広場利用者が、安全で快適に利用できるよう維持管理を行うことは、管理者として必要な事業である。
③受益の公平性	4	市の顔である駅前広場等の事業であるため、不特定多数の市民が恩恵を受ける事業である。
④ニーズの把握	3	駅前広場維持工事等一部においては、年度毎に提出していただく土木要望により、利用者の要望（ニーズ）を把握している。
⑤目標の達成度	4	駅前広場の日常管理については、適正に行えた。 犬山駅東西連絡橋の修繕計画に基づく、駅西エスカレーターの改修工事が予定どおり完了。
⑥改善の取組状況	3	予防保全的な補修工事を計画的に行うことで、ライフサイクルコストを軽減し、経費の標準化を図っている。

Ⅴ：業務の総見直し・総点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和元年度に見直しを実施した事項	犬山駅西エスカレーターの改修工事を予定どおり完了することができた。 東西連絡橋の空きスペースを活用した広告事業を実施し、新たな財源を確保した。
令和2年度に見直しを実施している事項	修繕計画に基づき、犬山駅東西連絡橋の屋根塗装等を行う。 犬山駅東西連絡橋の定期点検を実施（5年毎）を行い、施設の健全度を把握する。
今後見直しを検討する事項	令和2年度に実施する定期点検の結果を踏まえ、新たな修繕計画（5ヶ年）を策定する。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和元年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
<ul style="list-style-type: none"> 東西連絡橋の長寿命化 空きスペースの利活用検討 	<ul style="list-style-type: none"> 経年劣化により修繕を要する箇所が増加することが予想され、計画的に修繕を行っていく必要がある。 空きスペースの民間貸し等、利活用について継続して検討していく。

令和元年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
7	2	3	橋梁維持費	282

部局名	都市整備部
課名	土木管理課

I : 事業概要

施策事業名	橋梁維持補修
事業目的	橋梁の維持補修を行う。
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ●事業の全体計画 <ul style="list-style-type: none"> ・橋梁の路面や安全施設等の補修を行い、安全確保に努める。 ●主な事業内容 <ul style="list-style-type: none"> ○橋梁維持補修 <ul style="list-style-type: none"> ・橋梁維持工事 2件 477,360円
事業の成果・効果	地元要望等により橋梁の安全施設等の修繕を行い、安全確保に努めた。

II : 個別事業内訳

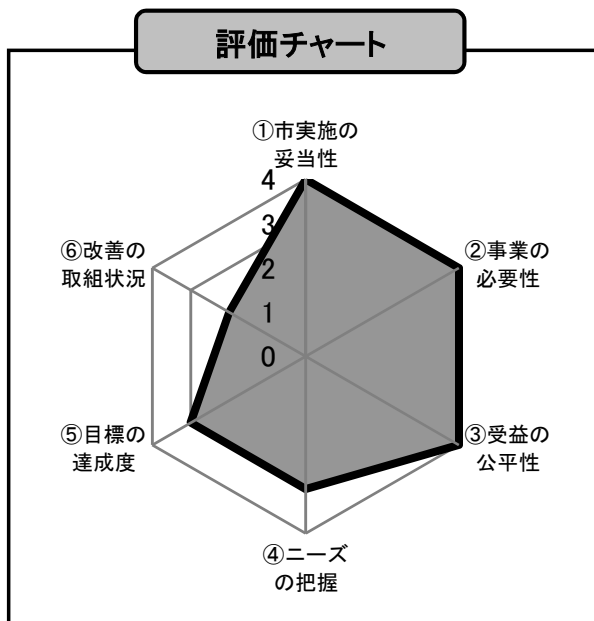
(単位：千円)

(総見直し・総点検進捗評価は4段階)

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	総見直し・総点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		情報発信	分かりやすさ	サービス水準
橋梁維持補修	478	0	478	100%	2	2	2
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	478	0	478	100%	2	2	2

Ⅲ：年度別事業費の状況 (単位：千円)

事業費		H30決算	R1決算	R2予算
		399	478	500
財源内訳	国県支出金	0	0	0
	地方債	0	0	0
	その他	0	0	0
	一般財源	399	478	500
一般財源の割合		100%	100%	100%



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	4	道路法16条の規定により市道の管理はその路線の存する市が行う。
②事業の必要性	4	橋梁の適正な維持管理を行っていく上で事業の継続は必須である。
③受益の公平性	4	道路橋梁の事業であるため、不特定多数の市民が恩恵を受ける事業である。
④ニーズの把握	3	年度毎に地元より提出される土木要望により、利用者の要望(ニーズ)を把握している。
⑤目標の達成度	3	要望については、対応することができた。
⑥改善の取組状況	2	定期的に施設の点検を行い不具合の早期発見に努め、危険ヶ所については速やかに修繕を行った。

Ⅴ：業務の総見直し・総点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和元年度に見直しを実施した事項	定期的に施設の点検を行い不具合の早期発見に努め、危険ヶ所については速やかに修繕を行う。
令和2年度に見直しを実施している事項	特になし
今後見直しを検討する事項	事業内容から「道路補修」もしくは「道路交通安全施設修繕」に統合することを検討する。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和元年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
危険ヶ所の早期発見	要望を待つのではなく、定期的に施設の点検を行い不具合の早期発見に努める。

令和元年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
7	3	2	河川改良維持費	284

部局名	都市整備部
課名	土木管理課

I : 事業概要

施策事業名	河川施設管理
事業目的	準用河川、普通河川、法定外公共用物(水路・調整池等)及びその附属施設を健全に維持管理する。
事業内容	<p>●事業の全体計画 準用河川、普通河川、法定外公共用物(水路・調整池等)及びその附属施設を健全に維持管理する。</p> <p>●主な事業内容</p> <p>○河川施設管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電気料金(調整池12か所、河川監視カメラ) 1,011,427円 ・高根洞工業団地水処理施設管理 14,404,120円 <ul style="list-style-type: none"> 点検・分析等 9,701,000円 汚泥処理等 4,703,120円 ・ポンプ保守点検委託(上坂公園調整池外8) 1,308,000円 ・河川排水路維持管理委託(地元要望:草刈・浚渫等) 61件 19,229,028円 ・枵・ゲート点検業務委託(稲葉用水路外8) 610,400円 ・河川排水路維持工事(地元要望:維持修繕工事) 38件 10,034,660円 ・高根洞工業団地水処理施設維持修繕工事 2,831,200円 ・雨水貯留浸透施設設置費補助金 175,800円 <ul style="list-style-type: none"> 雨水タンク、雨水浸透柵、既設浄化槽転用施設 ・雨水浸水防止施設設置費補助金 200,000円 <ul style="list-style-type: none"> 浸水防止施設(壁、板)
事業の成果・効果	河川・排水路や調整池等において、施設の運転管理や保守点検、除草や浚渫など適正な維持管理を行った。

II : 個別事業内訳

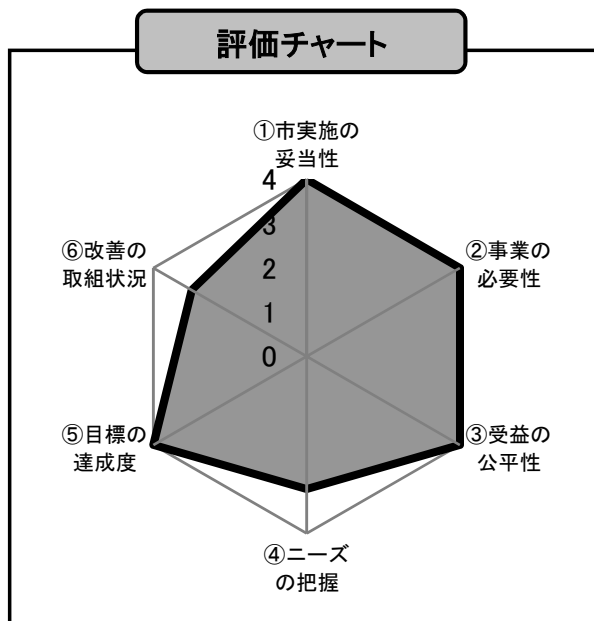
(単位:千円)

(総見直し・総点検進捗評価は4段階)

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	総見直し・総点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		情報発信	分かりやすさ	サービス水準
河川施設管理	50,281	4,013	46,268	92%	3	3	3
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	50,281	4,013	46,268	92%	3	3	3

Ⅲ：年度別事業費の状況 (単位：千円)

事業費		H30決算	R1決算	R2予算
		48,669	50,281	57,840
財源内訳	国県支出金	0	0	0
	地方債	0	0	0
	その他	3,912	4,013	4,408
	一般財源	44,757	46,268	53,432
一般財源の割合		92%	92%	92%



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	4	犬山市法定外公共用物の管理に関する条例第2条の規定により、排水路等の管理は市が行う。
②事業の必要性	4	排水路等の適正な維持管理を行っていく上で事業の継続は、豪雨等への対策は市民生活の安全基盤の整備であり必須である。
③受益の公平性	4	市内全域の排水路等の事業であるため、不特定多数の市民が恩恵を受ける事業である。
④ニーズの把握	3	年度毎に提出していただく土木要望により、利用者の要望（ニーズ）を把握している。
⑤目標の達成度	4	水路関係の地元要望に対する達成率は50%で、年度当初目標値40%を上回ることができた。
⑥改善の取組状況	3	保守点検により、施設健全度を把握し、修繕計画を立て予算平準化しながら維持管理を進める。 地元要望については、緊急性など優先度を考慮し、事業を実施。

Ⅴ：業務の総見直し・総点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和元年度に見直しを実施した事項	事業の実施時においては、妥当性、経済性等について見直しを図っている。
令和2年度に見直しを実施している事項	事業の実施時においては、妥当性、経済性等について常に見直しを図っていく。
今後見直しを検討する事項	今後も事業の実施時においては、妥当性、経済性等について常に見直しを図っていく。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和元年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
河川、排水路の雑草繁茂対策	張コンクリート等による雑草繁茂抑制対策工事の実施や、ボランティア活動で除草を行っている地元団体が継続できるような支援策などの検討を進める。

令和元年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
7	4	7	公園管理費	296

部局名	都市整備部
課名	土木管理課

I : 事業概要

施策事業名	都市公園維持管理
事業目的	都市公園等を安心・安全に使用できるよう適切な維持管理を行うことで、子どもたちの遊び場、健康維持増進、身近に自然とふれあう場や潤いのある空間として市民に提供する。
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ●事業の全体計画 <ul style="list-style-type: none"> ・所管する都市公園・緑地（78施設）、ちびっこ広場（61施設）、児童遊園（4施設）、ポケットパーク（5施設）の日常管理、施設点検、樹木剪定、維持修繕工事等を行う。 ・公共施設トイレの便器洋式化を推進するため、和式便器の洋式化工事を行う。 ●主な事業内容 <ul style="list-style-type: none"> ○都市公園維持管理 <ul style="list-style-type: none"> ・需用費 光熱水費（電気、水道、下水道） 4,032,214円 ・都市公園等維持管理業務委託 22,311,909円 <ul style="list-style-type: none"> 業者委託：犬山丸の内緑地、石作公園、上坂公園 アメニティ協会委託：内田防災公園外11施設 町内会等委託：都市公園・ちびっこ広場等 135施設を78団体に委託 ・木曾川犬山緑地維持管理業務委託 1,414,400円 ・犬山ひばりヶ丘公園維持管理業務委託 8,175,000円 ・山の田公園維持管理業務委託 1,068,200円 ・遊具保守点検業務委託（内田東町公園外126）※年6回実施 2,201,800円 ・樹木剪定業務委託（犬山丸の内緑地外） 12,679,896円 ・除草業務委託（四季の丘緑地外） 4,963,800円 ・花と緑のあるまちづくり事業委託（公園等花壇への花の苗植付・管理等） 2,898,400円 ・都市公園等維持管理工事（地元要望） 72件 19,347,312円 ○都市公園営繕 <ul style="list-style-type: none"> ・トイレ改修工事（便器洋式化） 2,035,000円 <ul style="list-style-type: none"> 犬山ひばりヶ丘公園（2基）、上坂公園（1基）、石作公園（1基）、前原公園（1基）
事業の成果・効果	<ul style="list-style-type: none"> ・除草、ゴミ拾い清掃など日常的な維持管理業務については、アメニティ協会、請負業者、町内会等への委託により管理を行った。 ・公園利用者の安心・安全を確保するため、遊具等の保守点検を年6回実施し不具合の早期発見に努めた。 ・比較的用户が多い4公園（犬山ひばりヶ丘公園、上坂公園、石作公園、前原公園）について和式便器の洋式化工事を行い、公共施設トイレの便器洋式化を推進した。

II : 個別事業内訳

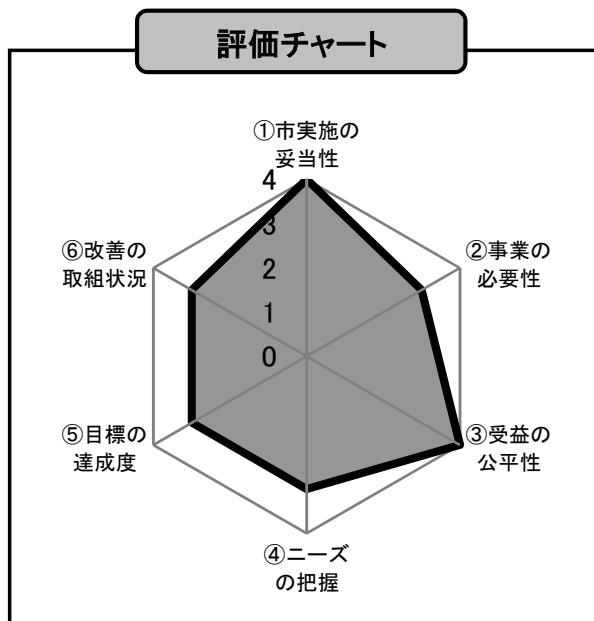
(単位：千円)

(総見直し・総点検進捗評価は4段階)

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	総見直し・総点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		情報発信	分かりやすさ	サービス水準
都市公園維持管理	86,648	382	86,266	100%	3	3	3
都市公園営繕	2,035	0	2,035	100%	3	3	3
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	88,683	382	88,301	100%	3	3	3

Ⅲ：年度別事業費の状況 (単位：千円)

事業費		H30決算	R1決算	R2予算
		78,153	88,683	91,059
財源内訳	国県支出金	0	0	0
	地方債	0	0	0
	その他	297	382	752
	一般財源	77,856	88,301	90,307
一般財源の割合		100%	100%	99%



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	4	行政財産であり、市が主体で管理するもの。
②事業の必要性	3	市民の日常生活に直結しているものではあるが、非常時においては、最低限の維持管理とし、要望事業の縮小もやむを得ない。
③受益の公平性	4	不特定多数の市民が利用し恩恵を受ける事業と考えられる。
④ニーズの把握	3	年度ごとの地元要望により、利用者ニーズを把握している。ひばりヶ丘公園等は、市民の他に近隣市町からの利用も多くあり、利用者のニーズを把握し応えていく必要がある。
⑤目標の達成度	3	公園に関する地元要望の達成率は、目標値と同様に80%達成することができた。公園除草の時期が遅れ、利用者から苦情を頂くことがあった。
⑥改善の取組状況	3	コスト管理、情報化推進を考慮しながら事業を実施している。

Ⅴ：業務の総見直し・総点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和元年度に見直しを実施した事項	<ul style="list-style-type: none"> ・業務総点検の一環として、ちびっこ広場・児童遊園 65箇所の施設点検を職員により実施した。 ・公共施設のトイレ洋式化を推進するため、4公園の便器洋式化を実施した。(犬山ひばりヶ丘公園 (2基)、上坂公園 (1基)、石作公園 (1基)、前原公園 (1基))
令和2年度に見直しを実施している事項	犬山ひばりヶ丘公園の照明灯をLED化し、電気料金など維持管理費の削減を図る。
今後見直しを検討する事項	全ての公園照明灯のLED化を推進し、電気料金など維持管理費の削減を検討する。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和元年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
公園に限らず道路等についても除草業務を効率的に発注するため、施工箇所をまとめているが、受注者の施行順序により除草時期が遅くなり、適切な時期に施行されないことがある。	除草業務受注者が適切な時期に作業に入れるよう、発注ロット等の見直しを検討していく

令和元年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
10	1	2	林業施設災害復旧費	376

部局名	都市整備部
課名	土木管理課

I : 事業概要

施策事業名	林業施設災害復旧
事業目的	集中豪雨、台風等の自然災害により被災した林道等を迅速に機能復旧する。
事業内容	<p>●主な事業内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大雨（7月18日）による路面損傷、側溝への土砂流入および道路への倒木などの復旧を行った。 <p>○道路橋梁災害復旧</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害復旧工事請負費 林業施設災害復旧工事 2件 317,520円
事業の成果・効果	大雨（7月18日）に伴う倒木および路面土砂の撤去など復旧工事を行った。

II : 個別事業内訳

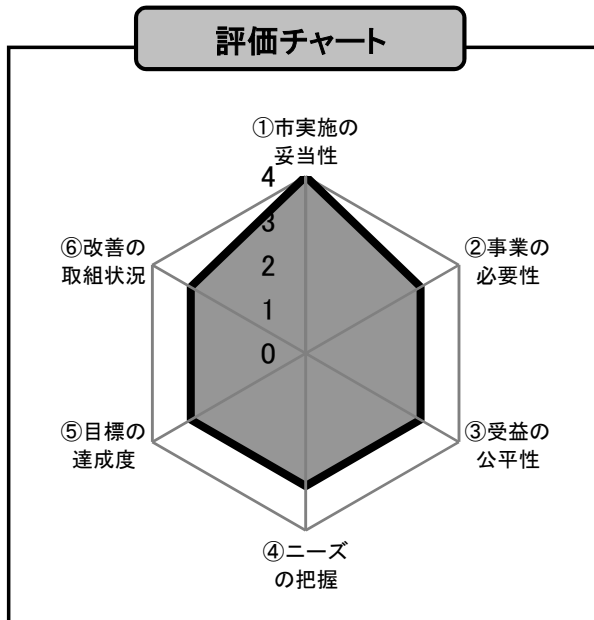
(単位：千円)

(総見直し・総点検進捗評価は4段階)

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	総見直し・総点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		情報発信	分かりやすさ	サービス水準
林業施設災害復旧	318	0	318	100%	3	3	3
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	318	0	318	100%	3	3	3

Ⅲ：年度別事業費の状況 (単位：千円)

事業費		H30決算	R1決算	R2予算
		936	318	12,000
財源内訳	国庫支出金	0	0	0
	地方債	0	0	0
	その他	0	0	0
	一般財源	936	318	12,000
一般財源の割合		100%	100%	100%



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	4	林道管理規程第5条に定める管理者である市が行う。
②事業の必要性	3	被災箇所を復旧することは管理者の責務であり、事業の継続は必須であるが、非常時には、受益者が少ないため縮小も止むを得ない事業である。
③受益の公平性	3	林道利用者は限られているが、森林の持つ多面的な機能は、市民の生活環境向上に寄与している。
④ニーズの把握	3	災害復旧については、早急な対応を要望されている。
⑤目標の達成度	3	災害復旧という事業の性質上、年度当初に目標・計画を立てられない。今年度の災害復旧工事については、迅速に対応することができた。
⑥改善の取組状況	3	災害復旧事業に関する知識を習得するため継続的に研修を受講させる等、職員の技術力向上を図っている。

Ⅴ：業務の総見直し・総点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和元年度に見直しを実施した事項	毎年、災害復旧事業に関する研修を職員に受講させ、技術力向上を図っている。
令和2年度に見直しを実施している事項	継続して、災害復旧事業に関する職員の知識、技術力向上を図っていく。
今後見直しを検討する事項	今後も、災害復旧事業に関する職員の知識、技術力向上を図っていく。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和元年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
災害復旧財源の確保	災害復旧事業制度を有効に活用し国庫補助金を確保できるよう、研修参加等により職員の技術力向上を図る。

令和元年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
10	2	1	道路橋梁施設災害復旧費	378

部局名	都市整備部
課名	土木管理課

I : 事業概要

施策事業名	道路橋梁災害復旧
事業目的	集中豪雨、台風等の自然災害により被災した道路・橋梁施設を迅速に機能復旧する。
事業内容	<p>●主な事業内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大雨（7月18日）による路面損傷、側溝への土砂流入などの復旧を行った。 ・台風10号（8月15日）の強風による道路への倒木の処理を行った。 <p>○道路橋梁災害復旧</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害復旧工事請負費 道路災害復旧工事 6件 1,212,840円
事業の成果・効果	大雨（7月18日）、台風10号（8月15日）に伴う、倒木処理、路面補修、側溝土砂撤去など復旧工事を行った。

II : 個別事業内訳

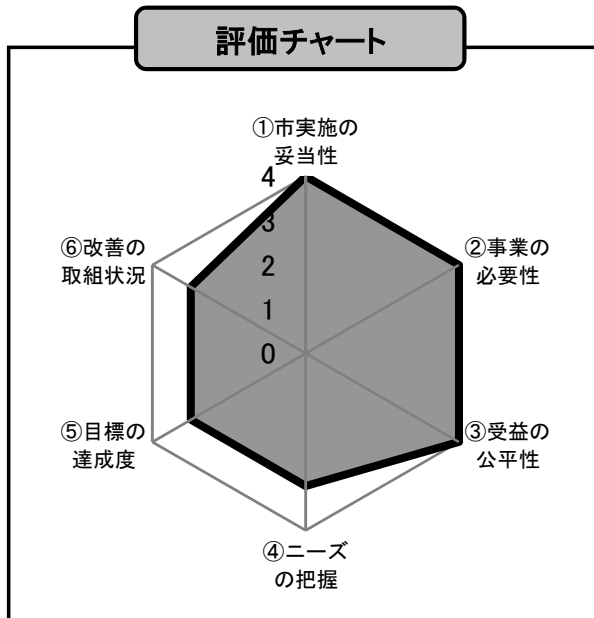
(単位：千円)

(総見直し・総点検進捗評価は4段階)

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	総見直し・総点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		情報発信	分かりやすさ	サービス水準
道路橋梁災害復旧	1,213	0	1,213	100%	3	3	3
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	1,213	0	1,213	100%	3	3	3

Ⅲ：年度別事業費の状況 (単位：千円)

事業費		H30決算	R1決算	R2予算
		23,310	1,213	12,000
財源内訳	国庫支出金	0	0	0
	地方債	0	0	0
	その他	0	0	0
	一般財源	23,310	1,213	12,000
一般財源の割合		100%	100%	100%



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	4	道路法16条の規定により市道の管理はその路線の存する市が行う。
②事業の必要性	4	ライフラインである道路施設を適正に管理することは行政の責務であり、必須な事業である。
③受益の公平性	4	市内全域の道路等の事業であるため、不特定多数の市民が恩恵を受ける事業である。
④ニーズの把握	3	災害復旧については、早急な対応を要望されている。
⑤目標の達成度	3	災害復旧という事業の性質上、年度当初に目標・計画を立てられない。今年度の災害復旧工事については、迅速に対応することができた。
⑥改善の取組状況	3	災害復旧事業制度を有効に活用し国庫補助金を確保できるよう、研修参加等により職員の技術力向上を図っている。

Ⅴ：業務の総見直し・総点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和元年度に見直しを実施した事項	毎年、災害復旧事業に関する研修を職員に受講させ、技術力向上を図っている。
令和2年度に見直しを実施している事項	継続して、災害復旧事業に関する職員の知識、技術力向上を図っていく。
今後見直しを検討する事項	今後も、災害復旧事業に関する職員の知識、技術力向上を図っていく。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和元年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
災害復旧財源の確保	災害復旧事業制度を有効に活用し国庫補助金を確保できるよう、研修参加等により職員の技術力向上を図る。